

算数科 小学校 5年

単元名 合同な図形
～三角形・四角形の角～

本時の流れ（第3時）

復習
前時の復習をする。

めあての把握
三角形の学習時に確かめた方法などを想起させることで、見通しを持って学習をすすめることができるようにする。

自力解決
自分なりの方法で内角の和を求め、それを言葉で説明できるようにする。

【発問】
なぜ、四角形の角の和が 360° とい
うことができるでしょう。

集団解決
色々な考え方を聞き、自分の求め方と他の人の考え方を比較する。

【発問】
四角形の和の求め方を発表してもらい
ましょう。

評価問題
四角形の内角の和が 360° ということを使っ
て、問題を解く。

学習のまとめ
学びの振り返り

【本時の目標】
○三角形の内角の和のきまりを適用し、
四角形の内角の和の求め方を考える。

【めあて】
四角形の4つの角の和が 360° になる
ことを確かめよう。

「活用」の力を育てる評価の工夫

本時は、この単元の3時間目である。本単元では、「操作活動を通して、三角形や四角形の角の大きさについて考えることができる。」が目標の一つである。また、その発展、活用形として多角形の内角の和を合理的に求める力の育成を図ることも目標の一つに挙げている。

四角形の内角の和を求めるためには、分度器を用いたり、切って貼ったりという作業の他に、対角線を引き、四角形の中に三角形を二つ作るという論理的な方法も考えられる。児童が自分の言葉で解決方法を表現できるように考える時間を十分確保し、それぞれの意見を交流する中で、どの方法が一番素早く、正確に内角の和を求めることができるのかを学級全体で確認する時間を大切にする。他の方法との違いを明確にすることで、これまでの学習を活用することの良さに気付かせる。

何人かの考えを発表させ、どの方法が一番早く、正確に求めることができるか学級で検討する。

本時の学習でわかったこと、大切なことを書かせる。

授業展開例へ

評価問題

単元の流れへ

HOME